

シオン通信

Vol.4



茨城県下妻市下妻丁 212-1
シオンセミナー下妻校

Newsletter for promising students & parents

「親子で乗り切る大学受験」特集 - 保護者の皆様へ -

暑くなりましたね！ 2009年度大学入試まであと8ヶ月。受験生の保護者の皆さまは夏が近づいてもバカンスの計画を立てるとい気にはなら ものの、まだ先のこととんびりして、気がつくと受験の直前ということにならないように、いつ何をしておべきか今のうちに押さえておきましょう。高1〜2生の保護者の方もいずれ通る道ですから、どうぞ参考までにご覧ください。
(河合サテライト通信より引用)

1. 今〜進路決定の時期

【進学目的をはっきりさせる】

いまや、少子化の時代であり、大学進学率は今後も低下しないでしょう。大卒後の就職状況では内定率が上昇傾向にはありますが、真に自分に合った職業を得るためには、「何のために大学進学するのか」「大学で何を学べるのか」といった進学の目的が問われているのです。したがって、大学受験も進学の目的をはっきりさせるところからスタートします。お子さんは大学進学に対する「目的」をはっきり持っていますか？

【学部選びは慎重に】

志望学部・学科選びで気をつけたいのは、子どもが自分の興味の方向や進路をきちんと把握して学部を選んでいるかを確認することです。また、子どもにその学問分野への適性があるかどうかの判断も大切です。単なる興味やイメージで学部を選択すると、入学してからギャップに悩むことも少なくありません。

まず、予備校や出版社が発行している案内冊子などで、子どもが興味のある学部について、さらに詳しく調べます。ほぼ志望学部が決まったら、次は大学選びのために興味のある大学の資料を取り寄せます。大学案内は5月下旬から夏にかけて発行されます。学べる学問内容、卒業後の進路、取得可能な資格、施設設備や学生生活などさまざまなデータが紹介されています。大学へ資料請求するほか、大学のホームページを開設していますので、そこで最新情報を得たり、各種資料の送付を申し込むこともできます。

志望校を決定するのは受験生本人ですが、親としても、子どもの希望大学・学部について、情報・知識を持ち、的確なアドバイスができるよう心がけたいものです。そのために複数の大学案内を見比べておくべきです。特に推薦・AO入試を考えている場合は、このような資料を読みこむことが一層大切になります。

2. 夏〜受験の天王山、勝負の夏休み！

【何より大切な規則正しい生活】

夏休みは受験の山場の一つです。夏休みをどれだけ規則正しく過ごせたかは、秋以降の学力の伸びにも大きく影響します。その一方で、夏休みは生活のペースが崩れがちなのも事実。夏をどう過ごすかで、この1年が大きく変わると言っても過言ではありません。親としても子どもが生活のペースを崩さないようサポートしたいものです。

そこで「規則正しい生活を送る」ために活用させたいのが、学校での補習に加え塾・予備校で開催される夏期講習です。予備校自習室や公共図書館を利用するも有効です。毎日、同じ時に家を出て、決まった時間を勉強することで生活のリズムが生まれます。一日中一人で勉強するよりも、受験という同じ目標に向かい奮闘している仲間と机を並べて勉強することで、緊張感のある時間を過ごすこともできるのです。

【受験勉強の時間】

河合塾の調査によれば、受験勉強の時間は、休み中ならば1日8時間程度が目安となります。ただ時間ををかせればよいわけではありませんが、学力レベルが上 の子どもほど長時間勉強する傾向にあります。

また、2学期の学校以外での平均勉強時間は平日 4.7 時間、休日では 7.8 時間、3学期では平日 7.0 時間、休日では 8.8 時間と、徐々に増えていきます。【表1】

【表1】夏休みの旧平均勉強時間

学力レベル	3時間未満	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上	(%)
上	2.4	2.9	3.4	5.6	7.1	8.8	17.5	10.2	24.3	17.8	
中	4.5	3.8	4.0	6.7	9.6	8.7	19.4	9.1	22.5	11.7	
下	7.9	7.6	6.8	9.8	10.1	7.6	16.6	7.3	16.6	9.8	

(2007 ロングステイヤー - 河合塾生アンケート - より)

次に勉強する時間帯ですが、部活などで帰宅が遅いので、深夜に勉強する受験生がいます。しかし、学力レベルが下のグループほど「深夜型」の割合が多くなっているのも事実です。【表2】 深夜は静かで勉強しやすいという声も聞きますが、一日中酷使してきた「頭」が深夜に活発に動きまわらないでしょう。疲れた頭で無理に勉強を続けても、かけた時間ほどの効 は得られません。したがって、夜も適度な時間は切り上げ、翌日に備える「夜型」の方が効 的だと思われます。子どもが連日深夜まで勉強している場合には、早く寝るよう声をかけ、やり残したことがあるならば、翌朝 30 分でも早く起こすなどしてサポートしてやるほうがよいのではないのでしょうか。

【表2】勉強する時間帯

帰宅後、どのような時間帯に勉強していたか？ (%)

	学力下	学力中	学力上
夜型（～0時頃）	64.8	72.4	76.3
深夜型（22～2時）	32.2	23.0	18.9
朝型（4時～）	3.0	4.6	4.7

(2007 ロングステイヤー - 河合塾生アンケート - より)

また、「集中して勉強できる時間どのくらいか？」の質問については、「1時間 30 分」と答えた受験生が 35.1%、次いで「2時間」28.6%、「1時間」20.6%となります。実際、集中力が続くのは時間 30 分程度というデータもあります。上手く休憩を挟みながら効率よく勉強できるようにさせたいものです。

3. 秋～悩みや不安の増す季節

【スランプを乗り越える】

受験勉強も佳境に差しかかる秋。このころから学習に関する悩みや不安を持つ受験生が増えてきます。受験期で一番悩むのは、「学習」です。10月頃からさまざまな悩みに襲われます。「時間をかけた割に成績が伸びない」「時間が足りない」「自分だけが伸び悩んでいるように思えた」等々です。【表3】ここで親として注意することは、あまり口うるさく言わないことです。子ども自身が不安なときに「成績あからないねえ」「ほんとに勉強しているの？」などという親の辛らつな言葉を聞くのは、かなり辛いもの。子どものことを真剣に考えてあげばその言葉ですし、子どもの姿にイライラするでしょうが、一番辛いのは受験生本人であることを忘れずに、やさしい目で見守ることが大切です。また、この時期から模擬試験がラッシュになります。親として注意したいのは、帰宅後に模試の出来具合について根掘り葉掘り聞かないことです。うまくいかなかった時に、この間いかけたが耳障りに感じて、親子げんかの火種になることもあります。とはいえ、子どもの成績はきちんと押さえておきたいもの。親の希望と本人の実力がかけ離れていると、受験校決定の際にトラブルを起こします。返却された成績表には、必ず目を通すようにしましょう。

【表3】学習で感じた不安や悩み

時間をかけた割に成績が伸びないと感じた	22.3%
時間が足りなくて焦りを感じた	13.7%
自分だけが伸び悩んでいるように思えた	12.4%
学習意欲の衰退を感じた	8.0%
勉強に集中できないと感じた	6.4%
何を勉強してよいかわからないと感じた	5.5%
学習目的に対する疑問を感じた	1.6%
その他	3.3%

(2007 ロンゲストイヤー ―河合塾生アンケート-より)

4. 冬～出願準備はつかりと

【出願準備は早めに余裕をもって】

受験の一年も終盤です。いよいよ受験シーズン本番に突入して、まずやるべきことは大学への出願です。大学入試センター試験の願書受け付けが始まるのは10月初旬。願書は9月以降に各地の国公立大学などで無料配付されますが、高校でも一括入手するので、自分で取りこむ必要は少ないでしょう。国公立大学（二次試験）の出願期間は9日間、センター試験の約1週間後から始まります。センター試験の自己採点結果を見てから慌てて願書を取り寄せる受験生もいますが、締め切り間に合わなくて、出願を諦めざるを得なかったという情けないケースにならないように、万が一に備えて本命大学以外にもいくつかの大学の願書を取り寄せておくべきでしょう。私立大学の出願期間は大学によってまちまちです。早い大学は年内から受け付けが始まります。締め切り間際になって慌てることがないように確認しましょう。また、願書の記入・作成には案外時間がかかります。直前になって慌てないよう、時間的に余裕のあるうちに、ある程度準備しておくようにしたいものです。

【受験期のトラブル】

直前期に限って見舞われるトラブル。よくあるのは子どもや家族の体調不良に関するトラブルです。「試験前日に高熱をだした」、「インフルエンザ予防注射など気をつけていたが、試験直前に風邪を引いた」特に、インフルエンザの予防接種は、受験生だけでなく家族全員が受けるようにしておくと安心です。受験期にぶつかるやっかきものとして花粉症もあります。花粉症の薬を処方してもらっても、眠くなってしまふ薬では使えません。花粉症をどう乗り切るのか、早めに対策準備しなければなりません。

その他に、「センター試験の受験票を学校の先生から渡されたのに、受験票とは思わず紛失し大探した」「併願するか迷っていたら出願が遅れ、希望会場で受験できなくなってしまった」、「ホテルの手配が遅く、試験会場へ電車で時間もかかる所

に泊まらざるを得なかった」などのトラブル事例があります。遠隔地の大学を受験する場合、不慣れた土地で宿泊する訳ですから、少しでも受験生の心理的な負担を取り除くためにも、ホテルは便利なところを予約したいものです。受験校を早めに決定し、宿泊の予約もなるべく早めに押さえておきましょう。受験会場の近隣で宿泊できないような事態にならないよう心かけたいものです。

【出願の際のチェックポイント】

さて、出願に際して、受験スケジュールを確認しておきましょう。ポイントは次の5点です。

- ①試験日が連続しすぎているか
- ②移動スケジュールに無理はないか
- ③第1志望校が入試日程の最初にきているか
- ④合格発表と入学手続きの締切日を考慮しているか
- ⑤国公立大学の場合) 前・後期日程の出願校の組み合わせは妥当か

受験は体力的にも精神的にもたいへんな負担がかかります。連続した試験は3日間が限度。移動時間等も考慮し、子どもの受験スケジュールに無理がないか目を配ってください。また、できれば第1志望校を受験する前に校でも受験を経験しておいたほうが、当日の不安が軽減されるでしょう。本番を前にして、必ず子どもに試験会場の下見をさせることです。当日初めて試験会場に向かったものの、予想外に時間がかかったり、道に迷ってしまったたりして遅刻ということにでもなれば、入試に影響します。

5. 受験本番～これまで培った実力を試すとき

【万全の力で臨めるように】

受験当日。子どもがリラックスできる環境・雰囲気を送り出すよう心がけます。まず、試験場には早めに向かわせるとよいでしょう。マンモス大学や郊外の大学では、普段の勤・学者数を大きく上回る受験生が押し寄せ、バス・タクシーが足りなくなり遅れそうになることもあります。また、入学試験が行われるシーズンは、屋内外でかなり温度差があります。温度調整がしやすい重ね着をさせるとういでしょう。

【合格発表】

試験日から7～10日後、合格発表が行われます。学内に合格者の受験番号を掲示するほか、ホームページに掲載する大学も増えています。また、レタックスによる合格発表を採用している大学も多く、発表当日に自宅で合否の確認ができます。合格の場合は、後日入学手続きの書類が送られてきます。

【入学手続き】

合格となれば次に入学手続きです。指定された期日までに納付金を払い込まなければ、たとえ合格 知があっても入学することはできません。問題になるのが併願校の入試日程。先に合格した大学の入学手続きの締切りが、後に受験した大学の合格発表より前の場合、納付金を払い込むかどうかで悩むことになります。納付金のうち一度払い込んだ入学申込金（入学金相当額）は、基本的に返却されません。3校以上受験する場合、後の大学の合格発表以降に先の大学の手續締切日かえるように調整することで、受験費用を極力抑えることが可能です。

【後期試験にチャレンジ】

努力が報われず不合格になってしまった場合でも、諦めるのはまだ早いのです。多くの私立大では、常月下旬から2月中旬に実施する入試の後に「後期試験」を実施しています。大学により後期日程または3月入試、2期入試など名称はさまざまですが、2月下旬から3月にかけて実施され、前期試験の合格発表後にも出願が可能です。このチャンスをものにするには、それまでの結 は忘れて、努力することが大切です。以上、保護者の皆様にご参考になれば幸いです。

<出典：河合塾刊 2008 栄冠めざして Family より>